

曾我兄弟に  
まつわる話 **虎御前の腰掛石**

昭和五十八年一月一日号

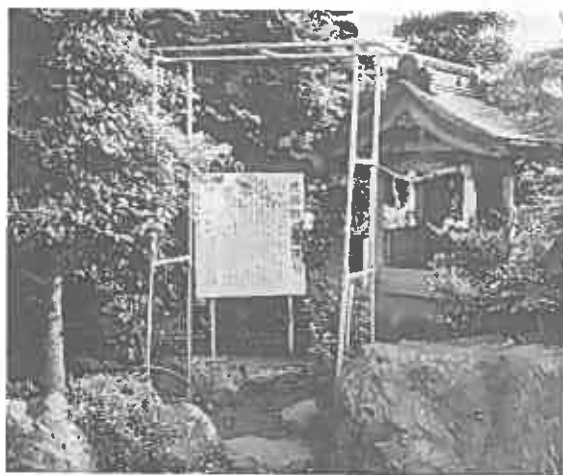
話してくれた人

石川喜十さん(片宿)

鷹岡地区には曾我兄弟にまつわる史跡がいくつかありますが、虎御前の腰掛石もその一つです。腰痛が治るとい言い伝えから、昔はお参りをする人も多かったのですが……。

**いつとはなしに里の人々が**

鎌倉時代、將軍頼朝の富士の巻ぎ狩りの陣中て起こった、曾我五郎十郎の仇討(今から七百九十年前・建久四年)にまつわる史跡は、この辺りにいくつかがあるが、虎御前の腰掛石というのは、ほれ、この石なんだよ。



虎御前の腰掛石

知つてもいようが、虎御前とらごぜんというのは、兄  
十郎祐成じゅうじょうゆうせいの愛人で、それは情の深い美しい人  
だったそうだな。

その虎御前が、二人の安否を気づかつて、  
居ても立つてももられず、大磯おほいそを旅立つて、  
たずねたずねて、ようやくここまで来たそう  
じゃ。

そして、いとしい人はもうこの世にいない  
と聞いて、はりつめた心が一度にやぶれ、流  
れる涙をふきもせず、くずれるように腰をお  
ろしたという……。

いつとはなしに、里の人々が、この石を供  
養するようになった。ほれ、この小川の水で  
石を洗つてやるとナ腰痛が治るということだ。  
昔はお参りする人も多かつたが、今はめっき  
り減つて、社会科見学の小学生や、時おり調

査の学生が来るくらいになつてしまつたな  
あ……。

